

## 企業課題 「うみたまご」特別展プロジェクト

近年、全国の水族館では、集客目的のために、お正月や七夕、などの季節をテーマにした特別展を行うことが、主流となってきています。大分マリンパレス水族館うみたまごにおいても、特別展を実施しており、このたびリニューアル10周年を迎え、学生のアイディアによる特別展の企画を考えて欲しいとの依頼がありました。特別展として次の3つの課題を頂きました。1つ目は、展示期間は、平成25年12月14日から25日までの12日間。2つ目は、テーマに合わせて水族館に常設されている、4つの水槽を使用する。3つ目は、「うみたまご」としてのブランドの質を維持した制作する。この3つの課題に取り組むために、有志によるプロジェクトチームを立ち上げ、何をテーマに特別展示を行うのか話し合い、展示期間がクリスマスということもあり、クリスマスをテーマとした特別展を企画することにしました。プロジェクトメンバーを4つのチームに分け、それぞれのチームで水槽のテーマやタイトルを検討し「うみたまご」の魚類チームリーダー濱田さまに提案をしました。提案した水槽は次の4つです。1つ目の水槽のタイトルは、【ゆきあそび】です。水草と流木をクリスマスツリーに見立て、雪は白い化粧砂を使い、雪の中で遊ぶ子どもたちを、サカナやエビたちの泳ぐ姿で表現し、子供の頃の【ゆきあそび】の楽しさを思い出していただきます。2つ目の水槽のタイトルは、【White X'mas】です。天から舞い降りて来る雪を、優雅に泳ぐホホワイトベタというサカナで表現し、ツリーは南米ウィローモスという水生のコケを使用しました。雪のように舞う、サカナの泳ぎを楽しんでいただきます。3つ目の水槽のタイトルは、【サンタとイルミネーション】です。サンゴを使ってツリーを制作し、そのサンゴに生息する生き物を使って、サンタとツリーのイルミネーションを表現しました。生き物たちがくりひろげる水槽の中の、小さなクリスマスの世界をご覧ください。4つ目の水槽のタイトルは、【あわてんぼうのサンタクロース】です。あわてたサンタは、バックスクリーンの絵で表現し、水槽内の金魚鉢をサンタクロースのプレゼント袋に見立て、クリスマスプレゼントは、色とりどりのサカナたちを使い、絵本からとび出したような水槽を表現しました。提案したすべての水槽と展示解説パネルの採用が決まり、滋慶学園初の水族館常設水槽での特別展プロジェクトの制作がスタートしました。前日に搬入準備を行い、当日の午後から水族館で、水槽制作の作業を行いました。水族館でのバックヤードは狭く、制作時間も限られており、思うように作業が進まず、現場で作業を行う厳しさを感じましたが、なんとか完成させることが出来ました。また、展示パネル制作の仕上げと、飾りつけを同時進行で行いました。展示パネル制作や飾りつけも初めての経験で、戸惑いながらも、時間内に仕上げる事が出来ました。すべての作業が終了し、うみたまごの田中館長に、確認をしていただき、館長より「良い展示が完成しましたね。みなさんの活躍に期待しています！」というお言葉をいただき時は、ホッとすると同時に、嬉しさが込み上げて来ました。館長のご配慮で、うみたまごのホームページにも特別展の記事を載せていただきました。また、4つの新聞社の取材を受けることも出来ました。展示期間中には、水槽のメンテナンスとお客さまの声を聞くために聞き取り調査を実施いたしました。今回の聞き取り調査では、子供むけに制作された水槽に人気が集まり、館長をはじめ水族館の方々からは、水草や流木を多用したネイチャーレイアウト

ト水槽に評価が集まるというちがいはありました。このことで、一般の方に評価される水槽と、プロが評価する水槽の、その両方の要素をもったレイアウト水槽を制作することが、アクア業界のファンを増やすためには、必要であるということに気づきました。今回の成功で、次回の特別展の依頼も来ていますので、今回の経験で学んだことを、後輩たちにも引き継いで、行きたいと思います。